



派遣事務報告

2014 Japan Sports Association Club Manager Training Project

派遣事務報告

派遣団総務 加藤 弘和

(公益財団法人日本体育協会地域スポーツ推進部クラブ育成課)

1. 派遣準備 (出発まで)

(1) 派遣団員の募集・決定

○4月25日(金)

- 都道府県体育・スポーツ協会に対し、派遣団員の募集通知を送付する。

○5月30日(金)

- 派遣団員の募集を締め切り、15都道府県体育協会より18名の推薦を受け付けた。

○6月13日(金)

- 選考委員会において、以下3点の選考基準にもとづき、派遣団員の選考を行った。

- ①日本体育協会公認クラブマネジメント資格(公認クラブマネジャーまたは公認アシスタントマネジャー)の保有者であること
- ②地域性(地域ブロックや都道府県)に偏りがなく(過去年度の派遣実績等も考慮した)
- ③所属クラブにおける活動状況や志望動機等

- 平成26年度第1回地域スポーツクラブ育成専門委員会において、13名の派遣団員を内定したほか、不測の事態に対応するため3名の補欠者を選出した。

また、派遣団団長として大原克彦氏(SC全国ネットワーク常任幹事/NPO法人こうかさスケくらぶ副理事長[滋賀県])、派遣団総務として加藤弘和(地域スポーツ推進部クラブ育成課)をそれぞれ決定した。

- 渡航に係る航空券、宿舎等の手配業者について、見積もり合わせの結果、株式会社JTBコーポレートセールスに決定した。

○6月26日(木)

- 内定者13名、補欠者3名、非内定者2名、派遣団員の推薦があった15都道府県体育協会に対し、内定通知、補欠通知、非内定通知を送付した。

(2) 事前研修会の開催

○6月26日(木)

- 団長及び内定者の計14名に対し、事前研修会の開催案内を送付した。

○8月7日(木)～8日(金)

岸記念体育会館内の理事・監事室において事前研修会を開催した。まず、山本理人氏(本会地域スポーツクラブ育成専門委員会中央企画班員/北海道教育大学岩見沢校教授)より「ドイツのスポーツ振興、スポーツクラブについて」をテーマに、ドイツのスポーツ組織、スポーツクラブの概要について講義いただき、次に平成25年度派遣団員である斎藤陽子氏より、平成25年度のドイツ研修での様子等を講義いただいた。

また、派遣日程、研修内容、派遣団の役割分担、渡航に係る諸準備等について確認を行った。

○8月13日(水)

- 事前研修会を修了した内定者13名、補欠者3名及び推薦都道府県体育協会に対して、派遣団員決定(補欠者には選考結果)通知を送付した。

(3) その他

○4月～9月

- 派遣に係る諸準備(土産品購入、派遣団メンバーリスト作成、通訳依頼、海外旅行保険加入手続き、旅行代理店との打合せ等)を行っ

た。

- ・ドイツでの受け入れ先であるライン・ノイス郡スポーツ相談課との日程、研修内容等についての調整を行った。

2. 派遣期間（研修時）

○9月27日（土）

【内容】最終打合わせ・結団式

【宿泊先】成田ビューホテル

派遣団員各自が17時までに成田ビューホテルに到着。ホテル内会議室において、日程、役割分担、土産品の仕分け等の最終確認を行い、引き続き結団式を行った。

その後、ホテル内レストランにおいて夕食を取り、派遣団員間の親睦を深めた。

○9月28日（日）

【内容】ドイツ・グレーヴェンブロイヒへ向けて出発(成田国際空港→デュッセルドルフ国際空港)

【宿泊先】ホテルゾンダーフェルト
(グレーヴェンブロイヒ)

8時に成田ビューホテルを出発し、バスにて成田国際空港へ向かった。空港ではJTB職員の指示に従い搭乗手続きを行い、出国審査等を済ませ、11時発の全日空941便に搭乗。12時間に及ぶフライトの後、16時（現地時間）にデュッセルドルフ国際空港に到着した。空港での入国審査、預入れ荷物を受領した後、到着ロビーで本研修の受け入れ担当であるアクセル・ベッカー氏（ライン・ノイス郡スポーツ相談課長）、通訳の松尾喜文氏の出迎えを受けた。空港からはバスでグレーヴェンブロイヒ市に向かい、宿舎であるホテルゾンダーフェルトのチェックインを行った。その後、グレーヴェンブロイヒ市内の伝統的なドイツ料理店で夕食をとり、ベッカー氏から翌日以降の研修内容について説明を受けた。

○9月29日（月）

【内容】表敬訪問・講義①②・クラブ視察①

【宿泊先】ホテルゾンダーフェルト

本日から、講義とクラブ視察が開始される。講

義会場は宿舎から徒歩で15分程度の距離にあるライン・ノイス郡庁舎である。

講義に先立ち表敬訪問として、ユルゲン・シュタインメッツ氏（ライン・ノイス郡副郡長）、ジークリート・ヴィレケ氏（ライン・ノイス郡スポーツ連盟事務局長）、相馬安行氏（在デュッセルドルフ日本総領事館首席領事）の3名からそれぞれ歓迎のご挨拶をいただき、派遣団からは大原団長より記念品の贈呈を行った。最後に、全員での記念撮影を行った。

表敬訪問後に講義①が行われた。講義①では、フォルカー・リットナー氏（ケルン体育大学特任教授）より、「社会の発展とスポーツ」をテーマに、ドイツの社会におけるスポーツとスポーツクラブの役割について、社会学的な分析をもとに講義いただいた。

昼食後、講義②では、アクセル・ベッカー氏（所属先は前出）より「ライン・ノイス郡のスポーツ」をテーマに、ドイツのスポーツシステムの概要及びライン・ノイス郡のスポーツシステムやスポーツクラブの現状について、講義いただいた。

続いて、クラブ視察①として、グレーヴェンブロイヒ市内にある「TUSグレーヴェンブロイヒ」を訪問した。クラブハウスでは、クラブの歴史（主にサッカー部門）について説明を受けた後に、サッカーチームの選手・スタッフの紹介を受けた。その後、クラブの理事らとの夕食懇親会を行った。

○9月30日（火）

【内容】講義③④・クラブ視察②

【宿泊先】ホテルゾンダーフェルト

午前中に郡庁舎において講義③を行った。講義③では、アクセル・ヴェルツ氏（TSVバイヤードルマーゲン）より「FIT for JOB - 企業に対するクラブのオファー」をテーマに、クラブが企業で働く従業員の健康面のサポートを行う取り組みについて講義いただいた。講義の後、団員を3グループに分けてグループディスカッションと発表を行った。各グループでは、任意の職種を選択し、当該職種では従業員の体にどのような負担がかかり、その負担（課題）に対してクラブ側ができることは何かを協議し、発表した。

昼食の後、午後はバスでコルシェンブロイヒ市へ向かい、市庁舎において、講義④としてハンス・ペーター・バルター氏（コルシェンブロイヒ市スポーツ課長）より「市町村のスポーツ振興」をテーマに、コルシェンブロイヒ市が行っているスポーツ振興の取り組みや市内のスポーツクラブが抱える課題等について講義いただいた。

講義④の後、バスでクライネンブロイヒに向かい、クラブ視察②として「コルシェンブロイヒ・シニア世代スポーツクラブ」を訪問した。クラブハウスにおいて軽食をいただきながら、クラブの歴史や現在行っている活動内容等について説明を受け質疑応答を行った。その後、バスでケーゲル（伝統的なドイツ式ボウリング）場へ移動し、クラブ理事たちとケーゲルを楽しみながら夕食懇親会を行った。

○10月1日（水）

【内容】 講義⑤⑥⑦・クラブ視察③

【宿泊先】 ホテルゾンダーフェルト

午前中に郡庁舎の議場において講義⑤及び講義⑥を行った。講義⑤においては、ゲスタ・ミュラー氏（ノイス市スポーツ連盟事務局長）より「クラブマネジメント」をテーマに現在ドイツのスポーツクラブが抱えている問題点とクラブマネジメントの観点からそれら問題点にどのように対応すべきかについて講義いただいた。

講義⑥においては、アクセル・ベッカー氏より「スポーツクラブの健康志向コース」をテーマに、現在、ドイツ国内で人気が高まっている健康志向のスポーツプログラムの内容や州スポーツ連盟が行っているキャンペーン等について講義いただいた。

昼食の後、午後からは講義⑦として、「スポーツクラブへの支援」をテーマに、ユルゲン・シュタインメッツ氏、クリストフ・ブロイアー氏（ケルン体育大学副学長）を招いたパネルディスカッションを行った。アクセル・ベッカー氏の進行により、派遣団からは久保田・鈴木の両名がパネリストとして登壇し、他の団員も巻き込んだ形式で進められた。

講義⑦の後、クラブ視察③としてグレーヴェン

ブロイヒ市内にある「オルケン体操クラブ」を訪問した。クラブ視察では、クラブが保有する体育館やグラウンド等の視察を行うとともに、クラブが結成している音楽隊による演奏を鑑賞した。派遣団では、演奏に対するお返しとして沖縄の踊り「カチャーシー」を披露した。その後、クラブ理事たちと夕食懇親会を行った。

○10月2日（木）

【内容】 講義⑧⑨・最終講義・答礼夕食会

【宿泊先】 ホテルゾンダーフェルト

午前中に郡庁舎の議場において講義⑧及び講義⑨を行った。講義⑧においては、ジークリート・ヴィレケ氏（ライン・ノイス郡スポーツ連盟事務局長）より、「ライン・ノイス郡スポーツ連盟」一スポーツクラブの利益を代表 課題、目標、活動—をテーマに、ライン・ノイス郡が行うスポーツクラブに対する支援内容について講義いただいた。

また、講義⑨においては、ギーゼラ・フーク氏（ライン・ノイス郡学校スポーツ委員会事務局長）より、「スポーツクラブと学校の連携」をテーマに、学校制度改革（半日制から全日制への移行）により学校とクラブの関係性が変化していることや、学校に対して積極的に働きかけているクラブの取り組み等について講義いただいた。

昼食の後、最終講義と題し、宿泊先ホテルのミーティングルームにおいて、これまでの講義及びクラブ視察を通じて派遣団員が感じたことについて、アクセル・ベッカー氏と質疑応答を行った。

最終講義の後、バスでノイス市へ向かい、市内の中華料理店において日本団主催の答礼夕食会を開催した。席上、日本派遣団を代表して大原団長よりアクセル・ベッカー氏へ本研修に対するお礼を申し上げるとともに、記念品等を贈呈した。最後にベッカー氏から本研修の修了証を各団員に手渡していただいた。

○10月3日（金）

【内容】 ケルン市内見学・FCケルンスタジアム視察

【宿泊先】 レオナルドホテル デュッセルドルフ

シティセンター（デュッセルドルフ）

9時30分より宿泊先ホテルのテラスで派遣団としてのミーティングを行った後、10時30分にバスでケルン市へ向かった。途中、鉱山地帯の見学を行い12時頃にケルン中央駅に到着。ケルン大聖堂近くで昼食をとった後、自由行動の時間を1時間設けた。

再集合後、地下鉄と路面電車を乗り継ぎ、FCケルンのサッカースタジアム（ラインエネルギーシュタディオン）の施設見学を行った。スタジアム職員の案内のもと、日常では見ることができない選手のロッカールームやプレスルーム等を視察することができた。

スタジアム見学後、17時にバスでデュッセルドルフへ向かい、18時頃にデュッセルドルフの宿泊先ホテルに到着。その後デュッセルドルフ市街地で夕食をとった。

○10月4日（土）

【内容】デュッセルドルフ市内見学・協議・日本に向けて出発（デュッセルドルフ国際空港→成田国際空港）

各自チェックアウト後、9時に各自市内見学に出発、その後ホテルに再集合・昼食をとった後にホテル内会議室において団員各自による本研修の総括及び帰国後の展開について発表を行った。

16時に現地ガイド同乗のバスでホテルを出発しデュッセルドルフ国際空港へ向かった。

空港到着後、現地ガイドのサポートを得ながら搭乗手続きを済ませ、19時35分発の全日空942便にて成田国際空港に向けて出発した。

○10月5日（日）

【内容】成田国際空港到着・解散

14時に成田国際空港に到着。派遣団全員が無事に帰国することができた。

最後に、到着ゲートにおいて大原団長より挨拶をいただき、解散となった。

<本研修事業の終了について>

本事業は今回の派遣をもって事業を終了することとなりました。

今回を含め、これまで参加された団員の皆様にとって、本事業が大変有意義な研修であったことは、団員レポートの内容から見ても明らかであり、事業終了は本会にとっても大変残念なことであります。

終了に至った理由は複数ありますが、主なものとしては、参加希望人数が多くなく、研修内容が本会のマネジメント資格や総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013（以下「育成プラン2013」という。）と必ずしも体系的な関係にないことが挙げられます。また、ドイツ国内のスポーツ統括団体であるドイツオリンピックスポーツ連盟（DOSB）が関与していないため、ドイツ全体の登録制度概要や指導者資格等の体制を明確に把握することが難しいことも課題として存在していました。つまり、ドイツのクラブライフを目の当たりにするという点では大変有意義ではあるものの、前述のとおり、まずもって本会内での体系的な体制整備を図ること、また、研修を実施する場合であってもDOSB（青少年部門を担当するドイツスポーツユースユニオンを含む）との連携等が必要と判断しました。

本会における総合型クラブ育成事業は、「育成プラン2013」及びその上位施策である「21世紀の国民スポーツ推進方策」に基づき推進しておりますが、数多い課題と向き合いながらの取り組みであり、優先順位を付けながら対処せざるを得ないのが実情です。来年度以降に本事業に参加を検討されていた方には大変心苦しく思うとともに、これまで本事業に関わられた全ての皆様に深く感謝申し上げます。

「とどけよう スポーツの力を東北へ！」
平成26年度公益財団法人日本体育協会
クラブマネジメント指導者海外研修事業実施要項

1. 趣 旨：

国民の一人ひとりがスポーツ文化を豊かに享受することを通して、スポーツが主体的に望ましい社会の実現に貢献するという「スポーツ立国の実現」に向け、本会が「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティ」を基本理念として推進する総合型地域スポーツクラブの育成に資することを目的に、地域スポーツクラブ先進国における地域スポーツクラブの歴史や意義、運営ノウハウ等を学ぶとともに、既に設立された総合型地域スポーツクラブにおいて活動するクラブマネージャー等の資質向上と活動促進を図るものとする。

2. 派遣者：公益財団法人 日本体育協会

3. 派遣人員：15名（団長1名、総務1名、団員13名）

4. 派遣期日：平成26年9月28日（日）～10月5日（日）（6泊8日）

* 9月27日（土）前泊

* 事前研修会（8月7日（木）～8日（金））への参加を経て派遣団員として決定します

5. 派遣先：ドイツ連邦共和国 ノルトライン・ヴェストファーレン州

6. 研修内容：（1）ドイツの生涯スポーツ振興施策
（2）ドイツの地域スポーツクラブの現況と課題
（3）ドイツの地域スポーツクラブマネジメント
（4）ドイツのクラブマネージャー養成システム

7. 経費：派遣団員は個人負担金として21万円を日本体育協会へ納入する。

派遣に関わる下記の経費は、日本体育協会が定めるところにより負担する。

- （1）旅費（集合、離散に関わる国内交通費、前泊に伴う宿泊費）* 事前研修会への参加に関わる旅費を含む
- （2）渡航費（但し、パスポートの取得に関する諸経費は自己負担）
- （3）旅行傷害保険
- （4）ドイツ滞在中の基本的経費（宿泊費、移動バス代等）
- （5）研修に関わる諸経費（通訳・講師謝金等）

8. 派遣資格：平成26年4月1日現在20歳以上で、下記のいずれかの条件を満たす者

○本会公認クラブマネージャーまたはアシスタントマネージャー資格取得者で、現に総合型地域スポーツクラブ（但し、総合型地域スポーツクラブ全国協議会加入クラブに限る）において、運営に携わっている者

○日本体育協会が上記条件を満たすことと同等であると特別に認められた者

* なお、団長、総務については本会が別途、人選するものとする。

9. 推薦方法：所定の推薦方式により、都道府県体育（スポーツ）協会を通じて、平成26年5月30日（金）までに本会宛提出する。

10. 派遣団員の決定：

応募締切後、本会において審査の上派遣団員を内定し、本人および当該都道府県体育（スポーツ）協会へ通知する。その後開催する事前研修会への参加を経て、派遣団員として決定し、本人および当該都道府県体育（スポーツ）協会へ通知する。

11. 公認スポーツ指導者資格更新のための研修：

この事業への参加は、公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者の資格更新のための義務研修となります。（クラブマネージャー資格についても義務研修となります。）

ただし、水泳、サッカー、テニス、バドミントン、剣道、山岳、空手道、バウンドテニス、エアロビック（コーチのみ）、スクーバ・ダイビング、スポーツドクター、アスレティックトレーナー、スポーツ栄養士、プロゴルフ（教師・上級教師）、プロテニス、職業スキーマスターの資格者については、別に定められた条件を満たさなければ資格を更新できません。テニスの指導者は2ポイントの実績になります。



PHOTO SNAP



9/27 - 9/28 成田～デュッセルドルフ～グレーヴェンブロイヒ



結団式



最終打ち合わせ



デュッセルドルフ空港に到着



グレーヴェンブロイヒの宿泊先

9/29 グレーヴェンブロイヒ



グレーヴェンブロイヒの街並み



ライン・ノイス郡旧庁舎



シュタインメッツ副郡長(中央)の歓迎



ライン・ノイス郡庁舎

9/29 グレーヴェンブロイヒ



ライン・ノイス郡庁舎



シュタインメッツ副郡長への表敬訪問

9/30 グレーヴェンブロイヒ～コルシェンブロイヒ～クライネンブロイヒ



研修風景



街中の風景



クラブ視察後のミーティング



移動の車中

10/1 グレーヴェンブロイヒ



研修会場(ライン・ノイス郡議会議場)



研修風景(パネルディスカッション)

10/1 グレーヴェンブロイヒ



クラブ視察(オルケン体操クラブ)



クラブ視察(オルケン体操クラブ)



クラブ視察(オルケン体操クラブ)



クラブ視察(記念品のこけしを贈呈)

10/2 グレーヴェンブロイヒ



朝のミーティング



ホテルから研修会場へ向かう一行



研修風景



昼食風景

10/3 グレーヴェンブロイヒ~ケルン~デュッセルドルフ



ケルン市内ライン川



FCケルンスタジアム

10/4 デュッセルドルフ



デュッセルドルフ市内



デュッセルドルフ空港

10/5 成 田



成田空港で解散

事業協力者 (通訳)



通訳の松尾さん (左) と多田さん (右)



通訳の高橋さん (右)

平成 26 年度 公益財団法人日本体育協会
クラブマネジメント指導者海外研修事業
報告書

発行日 平成 27 年 3 月 25 日
発 行 公益財団法人日本体育協会
〒150-8050
東京都渋谷区神南 1-1-1
岸記念体育会館
TEL 03-3481-2278

印 刷 (株)博文堂

宣言しよう、フェアプレイ。

宣言しよう。

全力をつくし、挑戦し、
楽しむことを。

宣言しよう。

仲間を信じ、思いやることを。

宣言しよう。

約束を守り、応援してくれる人への
感謝を忘れないことを。

その誓いは、スポーツを

もっと楽しいものにしてくれる。

日々の生活を

もっとすがすがしいものにしてくれる。

そして多くの人々を活気づけ、

今の日本を元気にするチカラにも
なってくれる。

さあ、あなたも手を胸に。

フェアプレイの誓いを。

フェアプレイで
日本を元気に

あくしゅ、あいさつ、ありがとう



「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンで、
フェアプレイの輪を広げ、日本をもっと元気に!

あなたもはじめの一歩を、まずはホームページで。

[フェアプレイ宣言](#)

[検索](#)



日本体育協会は、スポーツ立国の実現のため、国民体育大会をはじめとする各種スポーツ大会の実施やスポーツ指導者の育成等を行うとともに、スポーツの持つ価値や意義を広くアピールし、国民の生きる力の育成と活力ある社会の構築に貢献していきます。また、日本をもっと元気にしたい。その想いから、「フェアプレイ宣言」推進の取り組みも行っています。



公益財団法人

日本体育協会

わたしたちは、「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンを応援しています。



大塚製薬



三井住友海上
MS&AD INSURANCE GROUP

LAWSON

LOTTE

SUNTORY

KOSAIDO